別紙２

介護保険事業支援計画に記載した、市町村が行う自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組の支援についての目標（令和５年度）に対する自己評価結果

都道府県名： 山梨県

ア　取組の支援についての自己評価結果

項目名

介護予防・健康づくりの推進（自立支援、介護予防・重度化防止の推進）

（数値目標）
・介護予防に資する「通いの場」への参加人数（令和５年度：20,000人）
・フレイル予防を実践する市町村数（令和５年度：全市町村）

目標を設定するに至った現状と課題

少子高齢化が一段と進む中、健康寿命の更なる延伸を図るためには、若い頃からの健康づくりや、フレイル（虚弱）といわれる心身の活力（筋力、認知機能、社会とのつながりなど）の低下防止に取り組むことが重要である。
　特に、高齢者が自ら主体となって介護予防や、茶話会、趣味活動などを行う「通いの場」は、介護予防の効果と併せて社会参加を促すことにつながるとともに、豊かな地域コミュニティの基盤となり得る取組であり、更なる拡充が求められる。
　本県の介護予防・健康づくりの推進のため、介護予防に資する「通いの場」への参加人数とフレイル予防を実践する市町村数を重要な指標として捉え、数値目標を設定した。

取組の実施内容、実績

通いの場の立ち上げ支援、市町村の介護予防の促進
・市町村の介護予防の促進を図るため、ＰＴ・ＯＴ・ＳＴの専門的知識や技術を活かした介護予防事業の支援（通いの場の立ち上げ支援を含む）等を行った（「ＰＴ・ＯＴ・ＳＴバンク」を設置しており、令和５年度は、３市町に４２名派遣）。
・市町村がフレイル予防事業を効果的に取り組めるよう、フレイル予防アドバイザー（フレイル予防のノウハウを持つ専門職）をモデル市町村に派遣（令和５年度実績：７市町村に１２回派遣）。
・市町村フレイル予防ネットワーク連絡会を開催。市町村がフレイル予防対策を効果的に実施できるよう、市町村間の事業内容やアドバイザーの支援状況の共有を図った。
・フレイル予防アドバイザー連絡会を開催。住民主体のフレイル予防を市町村が効果的に実施していくため、有識者により、市町村支援について検討（令和５年度実績：市町村フレイル予防ネットワーク連絡会と併せて開催（令和６年３月４日開催　３６名参加））。

自己評価

自己評価【５】（達成率80%～）

	令和2年度（基準）		令和３年度	令和4年度	令和5年度
介護予防に資する「通いの場」へ参加人数	14,852人	目標	16,568人	18,284人	20,000人
		実績	8,844人（令和2年度実績）	9,517人（令和3年度実績）	14,807人（令和4年度実績）
フレイル予防を実践する市町村数	14市町村	目標	19市町村	23市町村	27市町村
		実績	19市町村	22市町村	24市町村

「通いの場」への参加人数①及び「フレイル予防」を実践する市町村数②について、令和５年度は、①目標の74%、②目標の88.9%の実績となった。
※(①74%＋②88.9%)÷2＝81.5%

※複数項目に分ける場合には、項目ごとに様式を分けて記入する。

イ　管内保険者の自己評価結果の概要

管内保険者の自己評価と該当する目標は次のとおり（保険者が設定した目標数109）
自己評価「3」以上の目標数は、104目標(99.1%)となった。
「通いの場」における市町村の自己評価では、”地域の元気な高齢者が、地域内の支え合いに生きがいを持てるようになる”という意見や”人と人との交流を通じた地域づくりにつながる”などの意見があった。
「フレイル予防」における市町村の自己評価では、”フレイルトレーナー、フレイルサポーターの養成を行うことで、介護予防の取組みが地域に広がることが期待できる”という意見や”介護予防・健康づくりを通じた地域づくりにつながっている”などの意見があった。
今後の課題として、参加者の高齢化、参加者の減少、利用者以外の高齢者へのアプローチ、参加が少ない男性への働きかけ、などが挙げられている。

（山梨県）保険者の自己評価結果（令和５年度）

自己評価	令5年度 設定目標数・割合	（参考）令和４年度 設定目標数・割合	（参考）令和３年度 設定目標数・割合	（参考）令和２年度 設定目標数・割合
5	26 目標（24.8%）	23 目標（21.9%）	21 目標（20.0%）	22 目標（30.6%）
4	36 目標（34.3%）	35 目標（33.3%）	30 目標（28.6%）	15 目標（20.8%）
3	42 目標（40.0%）	40 目標（38.1%）	40 目標（38.1%）	31 目標（43.1%）
2	4 目標（3.8%）	6 目標（5.7%）	7 目標（6.7%）	2 目標（2.8%）
1	1 目標（1.0%）	1 目標（1.0%）	7 目標（6.7%）	2 目標（2.8%）
合計	109 目標	105 目標	105 目標	72 目標

ウ　まとめ（ア及びイから考察した現状・課題と対応策）

高齢者と家族が住み慣れた地域で安心していきいきと暮らし続けるためには、健康づくり、フレイル予防の取り組みにより健康寿命の延伸を図ることが重要である。特に、高齢者が主体となって介護予防、趣味活動等に取り組む「通いの場」については、介護予防と併せて社会参加につながることから、その立ち上げを支援していく必要がある。
市町村が、地域の実情に応じた効果的な介護予防・フレイル予防対策が行えるよう、アドバイザーを派遣する等、各市町村の取り組みに対し支援を行っていく。